

親子で楽しいひとときを過ごしませんか？

「赤ちゃんのためのおはなし会」

赤ちゃんとその保護者のためのお話し会です。稲田昌俊さん(舟石川保育所主任保育士)を講師に迎え、読み聞かせや手遊びなどを通して、親子で楽しく触れ合うほか、育児に役立つお話もあります。ぜひご参加ください。



期日▼令和5年1月19日(木)

時間▼午前11時～11時30分

場所▼村立図書館

対象▼3歳以下のお子さんとその保護者

定員▼先着15組程度

その他▼新型コロナウイルス感染症の拡大防止等

のため、中止・延期となる場合があります。

申し込み・問い合わせ▼令和5年1月5日(木)以降に、電話またはメール(▽件名「赤ちゃんのためのおはなし会」▽住所▽氏名▽電話番号——を明記)で、村立図書館(☎282-3435 ✉tosyokan@vill.tokai.ibaraki.jp)へ申し込みください。

ふるさと歴史

～歴史を再発見～

小さな石の故郷を求めて

私たちと同様に、河原や海辺で出会う石にも、一つひとつに名前と故郷があります。この「故郷」とは石の産地のことで、石の特徴を調べると、「いつの時代に、どこで生まれた石なのか」を知ることができます。

古くから人々は、さまざまな種類の石に目を向けて、生活の道具や装飾品の石材(原材料)に利用してきました。現に、過去に生きた人々の活動痕跡である遺跡の出土品(石器等)には、石材利用の歴史が刻まれています。東海村では、こうした「人と石の関わり」が、今からおよそ3万3000年前(旧石器時代)に始まり、その後も今日に至るまで、石は人々の身近な存在であり続けています。

ところで、東海村の遺跡出土品を見ると、村内からは産出しない石で作られた石器等があります。このことは、何を意味するのでしょうか。昨年、こうした石の謎を探るため、市民学芸員(まる博研究員)と共に結成した「東海村の遺跡調

査団」は、菊池芳文博士(東海村文化財保護審議会委員・千葉科学大学)のご協力の下、古墳時代(約1600年前)の石製祭祀具である石製模造品の石材調査を行いました。その結果、石製模造品の石材は、蛇紋岩(滑石)と粘板岩という石でした。いずれも比較的やわらかい石のため、薄く仕上げる石製模造品の加工に適していたのでしょうか。問題は、2種類とも東海村からは産出しない石ということです。そこで、その故郷(産地)を探った結果、それは東海村の北方に連なる阿武隈山地(高地)にありました。このことは、他の地域から産出する石材そのもの、あるいは加工品(石製模造品)の人為的移動を示しています。つまり、遺跡出土品の石材産地をたどることは、往時の物流を解き明かす重要な手立てとなることを意味しています。



【村内の遺跡から出土した石製模造品】

今、皆さんの足元に転がる何気ない小石も、さまざまな物語を秘めているかもしれません。

歴史と未来の交流館学芸員

中泉 雄太